

平成29年度 デザイン活用型製品開発支援事業

1 目的

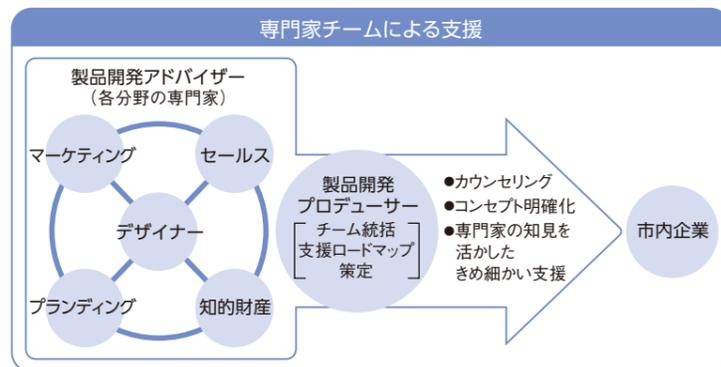
新製品開発や新事業展開を目指す意欲のある市内中小企業に対して、「製品開発プロデューサー」及びマーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である「製品開発アドバイザー」により構成される支援チームを派遣し、製品開発におけるプロセスの入口から出口まで一貫した支援を行うことで、市内製造業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 支援対象者

- 札幌市内に本社を有し、製造業等を営む中小企業者で、市が定める要件を満たすもの
- ・具体的な商品アイデア又は試作品を有すること
 - ・事業を推進するにあたり、デザイン・試作・営業・販売促進費用等の実費負担が可能であること
 - ・完成した製品の新たな市場参入等の成長意欲を有すること など

3 支援内容

製品開発プロデューサーが具体的な支援計画を策定するとともに、マーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である製品開発アドバイザーを企業の相談内容に応じて選定し、支援チームを結成して企業の新製品開発、新事業展開の取り組みを支援します。



4 支援件数

- 3件
(平成29年度採択案件)
- ・売れる製品を作る製品開発チームの確立 (株式会社白石製作所)
 - ・樹脂製冷暖房ラジエータの改良、製品開発 (株式会社テスク)
 - ・抗菌塗料の商品開発 (札幌エレクトロプレイティング工業株式会社)

5 支援対象経費

- ・専門家チームによる製品開発支援 (支援計画策定、専門家派遣8回程度)、試作 (一部) 無料
- ・デザイン・試作・営業・販売促進費用等の経費 企業負担

6 募集期間

平成29年5月19日～7月31日

7 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 産業企画推進部
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号 札幌市産業振興センター
TEL:011-820-2062 FAX:011-815-9321 URL:http://www.sec.or.jp

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社白石製作所

売れる製品を作る製品開発チームの確立

- 所在地/札幌市白石区米里2条2丁目2-6
- TEL/011-590-1022 ●FAX/011-590-1033
- 代表者/代表取締役 吉田 元海
- 設立/1954(昭和29)年7月 ●従業員数/15名
- URL/http://www.shiro-s.jp/

札幌市白石区米里工業団地で、ステンレスをベースに、食品関連機械や周辺設備を製造する株式会社白石製作所。食品の接液部に最適といわれている素材を加工し、源乳タンクから各種設備、チーズ・バター・クリーム・ヨーグルトの加工機器などを手掛ける。使う人に、喜んでもらえるような製品を提供している。

得意とするステンレス加工の技術を磨き、これまでにない製品開発に挑む

2つの新製品チームを発足

創業は1954(昭和29)年。現社長の祖父にあたる吉田盛義氏が白石本通3丁目に会社を設立したのが始まり。馬具の製作からスタートし、やがて鉄骨の加工を手掛けることが多くなり、ステンレス素材が使われるようになったころから流し台など、食品工場内の設備を製造するメーカーになった株式会社白石製作所。製造業として品質保証の確保の必要性から2000年にISO-9001の認証を受け、2006年に社屋を札幌IC近くの白石区米里に移転した。受注生産が基本で、発注図面に基づき、ステンレス板をカット・加工・磨き仕上げを経て出荷される。

同社では、こうした下請け体質の他に、もう1本の柱として自分たちの足で歩いていける会社にしていかなくてはならないと考え、ステンレス加工の技術向上を目指して製品開発チームを発足。作業時間の1割程度を目標に、新しいチャレンジに取り組んでいる。現在2つのチームがある。「人差し指はFとJ」となるとも遊び心あふれるネーミングのチームは、売れる製品を生み出すことがミッション。これまでにステンレスで作ったボルダリングボードや犬の置き物、ティッシュケースやカヌーといった試作品に取り組んできた。「白石②(まるに)チーム」は、ステンレスを使って世の中に存在していない製品を生み出すことをミッションとしており、ステンレスを使ったまったく

新しい製品開発に挑んでいる。実際に販売するとすると、単価があわずに高額となるところがネックだが、発想力を磨き、技術力を高める創造をつづける。

技術力を高めるために

同社では個人のスキルは自分で磨くといった方針をとっている。来た仕事をただかたちにしていくだけでは技術の腕が磨かれなないと考え、技術力を高めるためにも、会社として新しい製品を生み出す種まきの意味でも、一定時間を必ず確保して、新しい発想・製品を創ることを自らに課して時代を切り開こうとしている。

新しい挑戦の一環で コーヒー店の経営も

会社の3代目として社長に就任して2年になります。創業者である祖父の家を使って「焙煎研究所」という焙煎機と自家焙煎豆の喫茶店も経営しています。これもステンレスの可能性を追求してのこと。遠赤外線ガスコンロ式のこれまでに存在していないタイプの焙煎機です。新たなチャレンジに今後の可能性を見出していきたくと思っています。



代表取締役社長
吉田 元海

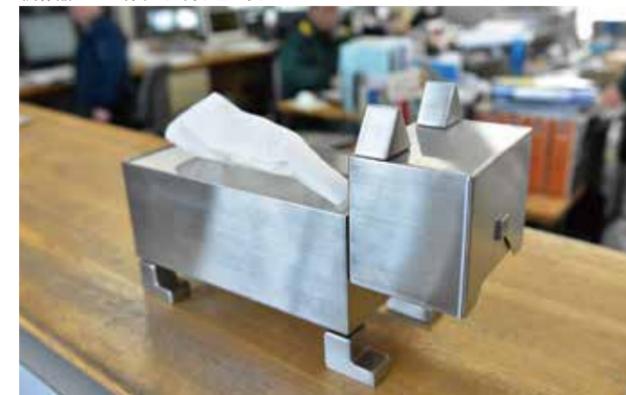
工場の全景



スタッフである職人が担当工程をこなしていく



試作品の一つ、犬のティッシュボックス



ボルダリングボードの模型

